

平成二十五年三月十九日

文語名文百撰は平成十八九年の頃、「文語の苑」幹事諸先生各所にて文語の重要性に就き力説せらるゝに、必ず「宜き参考書」の紹介を求められ、適當の書として無く、この上は自力にて参考書の作成の他なしと、企畫せるものなり。衆議の結果、文語に親しむには先づ古今の名文に接するに如かずとなり、思ひ附く名著約二百件より選びて百篇を得たり。完成は平成二十年六月海龍社より刊行、各篇原文、解説見開き二頁、解説の執筆四十名、B5判二百二十二頁の豪華本なり。

この文語名文百撰重さ六百五十グラムと持ち運びに難澁の不滿あるも、現在在庫無く増刷中なるは嬉しき報せなり。また本書の編輯組版を擔當せるは貴重なる經驗にて、平成二十四年一月刊行の今昔秀歌百撰、同二十五年二月刊行の明治大正文語五十撰に活かすを得たり。

我がやうに企畫編輯に關りたれば、内容は凡そ目を通したりとて、一讀理解し難き箇所も深く讀まずして過しけるを、「名文で辿る日本の歴史」として二三講讀するの機會に恵まれるれば、仔細に目を通すに、かゝる箇所こそ端々に筆者の思ひ現るれと、我が國古典の神髓に觸るゝ心地したる一再ならず。これ我が講讀の基本となり、その都度新しき發見ありたり。

横濱市もえぎ野センターにて文語名文百撰の講讀を始めたは平成二十二年十月なりき。爾來二年半、最初、二十二名にて開講するも半年後OB會に切換はるや六名にまで激減するも、その後の二年間退會者無く毎月四篇づつ讀み繼ぎて、本日遂に百篇の名文を讀了するに至れるは近來の快擧なり。

世に言靈ことたまといふことあり。言ことばに神の宿るを曰ひて、上古より言靈の幸はふ國、言靈の佐くる國と語り繼ぎ謂ひ繼がひけりと歌はる。これ繩文時代の後期に誕生せる國語により、水田稻作技術普及して、豊葦原の瑞穂國たかと稱へらるゝ彌生時代を現出せしめたるの謂ひなり。二千年後の今日、平素文語に接するなき半生にてかゝる快擧あるこそなほ言靈の幸はひ、佐けあるを感ずれ。

然は言へ、無爲にして言靈の驗しるしあるべからず。今にして惟ふに、名文誦讀は國語本來の韻律を甦らしめ、且つ回り持ちの先唱は豫習を習慣附け、口語解説文の一部を題材とせる文語作文は、本文文語體の復習と同時に、同一の内容に各人異なる表現ありて互に刺戟し合ふなど、博く國語學習の効果ありけり。偏へに參加各位の缺席もなき熱心なる聽講、自發的讀書態度が讀了の主因なるを悦ぶ。

初期半年の間、文語作文を指導せられたる愛甲次郎先生、並びに我が突然の入院に急遽代講を給はりたる高田友先生に感謝申上ぐ。

横濱市もえぎ野センターにては本年四月より衣更へし、こんなに美しい日本語―「文語の魅力教室」として再開し、我も引續き講師を勤むることなれり。